

研究課題名「急性期脳卒中後上肢麻痺に対するロボットアシスト療法の治療効果に影響を与える関連因子の検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2022 年 12 月から 2026 年 6 月末までの間に日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院に入院していた初発の脳梗塞・脳出血と診断された者のうち、作業療法にてロボットアシスト療法を継続して実施された患者様です。

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：脳卒中後に手や腕が動かしにくくなった患者様に対して、リハビリを支援するロボット(ReoGo®-J)を使ったりリハビリはこれまでの研究で効果が確認されており、実施することが強く勧められています。しかし、これまでの研究は、発症からある程度時間が経った患者様を対象としたものが多く、発症直後の患者様に対する効果については、十分に分かっていません。一方で、脳卒中後の手や腕の機能は、発症から 8 週間の間に大きく回復しやすいといわれており、この時期に適切なリハビリを行うことが重要です。そのため、本研究では、ロボットを使ったりリハビリを含む作業療法を行う前後で、麻痺した手や腕の動きがどのように変化するかを調べます。また、どのような患者様により効果が出やすいのかを明らかにし、今後のよりよいリハビリにつなげることを目的としています。

研究方法：

対象となる方の臨床情報について診療録を振り返って集計し統計学的に検討します。

研究期間：実施承認日 ～ （西暦） 2027 年 3 月 31 日

2. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別などの基本情報、運動麻痺の程度やロボットアシスト療法の訓練時間といったリハビリテーション治療の情報 等

3. 外部への情報の提供

所属機関以外への情報の提供は行いません。

4. 研究組織

共同研究機関：

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 寺島 有希子

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。ただし、データ解析が完了し、研究成果として発表したあとではデータの削除が行えません。

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

リハビリテーション療法学専攻作業療法学分野

職名・氏名：教授 上村 純一

住所：愛知県名古屋市東区大幸南 1-1-20

直通電話番号：052-719-1368

苦情の受付先：

名古屋大学医学部保健学科総務係：（052-719-1504）